



■再犯防止シンポジウム2019 in関東ブロックを開催します

薬物依存からの回復を考え、支えるために

事前申込制

11月6日(水)必着

先着**300名**

日時：令和元年**11月10日(日)**13:30~16:00

場所：さいたまスーパーアリーナ

TOIRO(STUDIO1・2)

[定員になり次第締め切らせていただきます]

[詳細は東京矯正管区HPから御確認ください]

プログラム概要

講演

「依存症に対する正しい理解と
必要とされる支援について」



成瀬暢也氏

(埼玉県立精神医療センター副病院長)

入場無料

依存症患者に共通する6つの特徴

依存症は、国際的な診断基準などで明確に病気として位置付けられており、意志の力では対処できない物質使用のコントロール障害を主症状としています。薬物乱用も薬物依存の一症状です。

依存症患者には次の6つの共通した特徴があるとされますが、その内容は誰しにも当てはまるものではありません。

自己評価が低く 自分に自信を もてない	人を 信じられない	本音を 言えない
見捨てられる 不安が強い	孤独で さみしい	自分を大切に できない

依存症の患者は、これらの生きづらさを抱え、精神症状に苦しむ一人の地域生活者であり、偏見や先入観を排して回復と社会復帰を支援することが欠かせません。

参考：成瀬暢也「ハームリダクションアプローチ」
中外医学社

パネルディスカッション

「薬物依存からの回復を考え、支えるために」

コーディネーター



荻上千キ氏

評論家。1981年生まれ、
兵庫県出身。TBSラジオ「荻上千キ・
Session-22」メインパーソナリティ

パネリスト

成瀬暢也氏 (埼玉県立精神医療センター副病院長)

栗坪千明氏 (NPO法人 栃木DARC理事長)

栃木県 保健福祉部薬務課長

栃木刑務所 教育専門官

ごあんない

今回のシンポジウムでは、成瀬暢也先生にご講演をいただけることとなりました。

成瀬先生は、依存症治療の第一人者としてご活躍されるとともに、この問題について、大変分かりやすく発信されています。著書はもちろんのこと、秋田書店(株)が運営するサイト「Souffle」に掲載された漫画家菊池真理子さんとの対談『「家族が依存症」のしんどさ、どうすれば?』をお読みいただければ、依存症に苦しむ人、また、その家族に対して同じ人間として真摯に向き合い、そして暖かな視線を送り、抱える生きづらさに手を差し伸べていらっしゃる事が伝わるかと思えます。ぜひ、成瀬先生のお話をお聞きください。

また、パネルディスカッションのコーディネーターをお願いした荻上千キさんは、2017年1月17日にTBSラジオ「荻上千キ・Session-22」で放送された「「薬物報道ガイドライン」を作ろう！」でギャラクシー賞・ラジオ部門大賞を受賞されています。その内容は同番組のホームページで書き起こされていて、大変示唆に富むものとなっています。メディアの報道がはらむ依存症への差別や誤解の助長、薬物への興味を惹き起こすような表現について、荻上さんが依存という病に苦しむ人を傷つけない方向へ進めたいという理念を共有しつつ、様々な言葉を引き出していて圧巻です。当日も大きな価値を生む対話が展開されると思えます。

今回のシンポジウムが、栃木県が新たに取り組んでいる薬物依存に苦しむ満期釈放者などを支えるアプローチなどを含め、生きづらさを抱えて犯罪に至った人であっても、「誰一人取り残さない」、また、苦しむ人を増やさないという再犯防止や更生支援の視点を共有できる場所になるものと確信しています。





■受刑者・少年院在院者の就労を確保したい！

- ▲無職者は有職者より、再犯率が約**3倍**高い。(平成25年～29年保護統計年報)
- ▲再犯して刑事施設に戻った人の約**7割**が、再犯時に仕事をしていない。(平成29年矯正統計年報)

就労の確保は再犯リスクの低減に直結する重要な課題

法務省では、厚生労働省などと共に刑務所出所者等の就労支援に取り組んできましたが、平成28年から、**コレワーク**（矯正就労支援情報センター室）を東西2か所に設け、受刑者・少年院在院者とその雇用を希望する事業主とのマッチングに取り組んでいます。

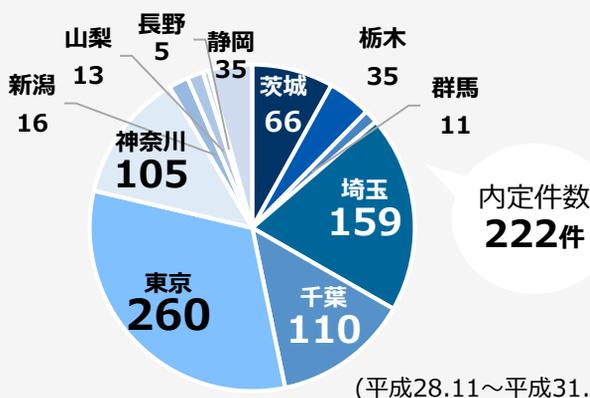
平成30年度末までに全国で**2,231件**のマッチングに関する相談があり、そのうち**540件**が内定へと結びつきました。

コレワーク東日本は、東京矯正管区（さいたま市中央区）に置かれています。

コレワークのサービス

- ①雇用情報提供サービス
出所6月以内だが、仕事の決まっていない全国の受刑者等の資格、職歴、出所後に帰る場所などの情報を一括管理し、事業者の方から相談を受け、その雇用ニーズにマッチする者を収容する刑務所等をご紹介します
- ②採用手続支援サービス
- ③就労支援相談窓口サービス
事業者の方への奨励金などの支援制度をご案内

東京矯正管区管内の事業者による雇用情報提供サービス利用815件の都県別内訳



お問い合わせ先 ☎ **0120-29-5089**

つ(な)ぐ コレワーク

(受付時間 平日のみ 🕒 10:00～17:00)

✉ recruit-inmates-tokyo@cccs.moj.go.jp

■コレワークと地方公共団体が連携した取組

コレワークでは、地方公共団体と連携し、企業の社会貢献活動の一環として、刑務所出所者等の雇用を模索している事業者の方などを対象としたセミナーの開催に当たっています。

内容としては、刑務所や少年院の見学、就労支援の取組の紹介、コレワークの業務内容説明を含めた出所者等の雇用手続のご説明、事業者等に対する各種支援制度のご紹介に加えて、実際に刑務所出所者等の雇用経験をお持ちの事業者の方にご講演をいただき、実例のご紹介も行っております。

各地方公共団体におかれても、このようなセミナーの開催について、ご検討いただければ幸いです。

また、事業者等が集まる研修会等の場におきまして、お時間をいただけましたら、コレワークの職員を派遣し、各種の説明を行わせていただきます。

上段記載の連絡先に、お気軽にお問い合わせください。



▲静岡市産業政策課と連携し、令和元年7月5日に静岡刑務所で開催した刑務所出所者等雇用支援セミナーの開催状況です。11社12名の方にご参加いただきました。

詳細は東京矯正管区ホームページに**コレワーク東日本NEWS LETTER 2019.7-2**として掲載しております。



編集
後記

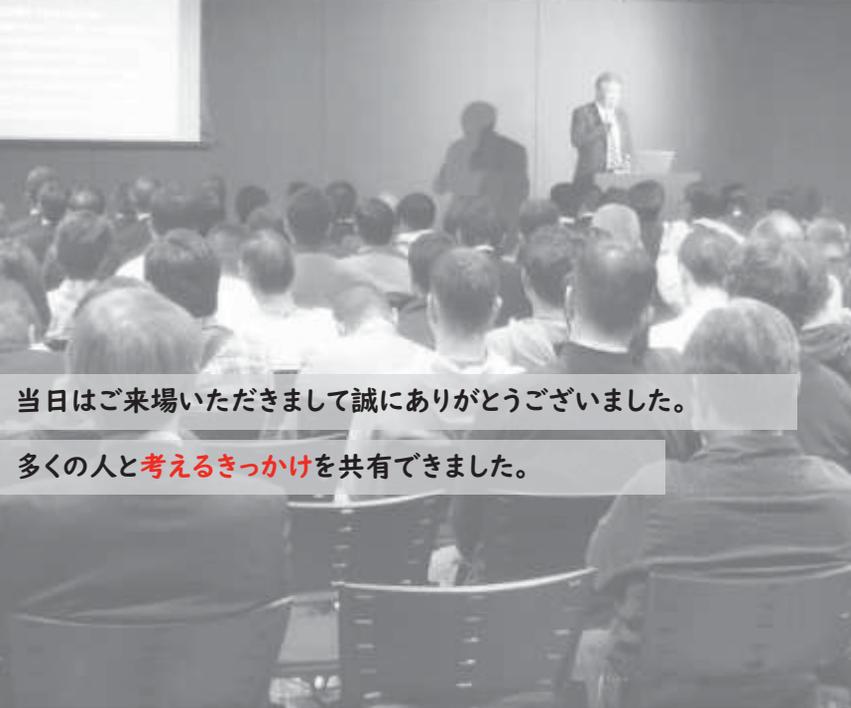
こけこっこー通信の発行開始から半年が経ちました。ありがたいことに、内容以外のタイトルやキャラクターについても多くの反響をいただいております。これからも皆様「読んでいただく」ことを意識した紙面づくりを目指し

ます。目下、再犯防止シンポジウムをより良いイベントとすべくスタッフ一同奔走しております。引き続きお引き立てのほどよろしくお願いいたします。TEL. 048-600-1560
✉ kouseishien-tokyo@cccs.moj.go.jp



再犯防止シンポジウム2019 in 関東ブロック

薬物依存からの回復を考え、**支える**ために
開催結果報告



去る11月10日に開催した再犯防止シンポジウム2019 in 関東ブロックには**190名**の方にご参加いただき、意義深い会となりました。ご参加いただいた皆様、ご協力を賜った皆様に深く御礼申し上げます。

国の関係機関だけではなく、(株)小学館集英社プロダクションと共に、また、地方公共団体や民間団体等にもご参加いただき、誰一人取り残さない社会の実現という再犯防止推進計画の理念の下、ご登壇の方々と、依存症への理解と、薬物依存症からの回復に向けた継続的な治療・支援の必要性を共有させていただきました。

手前味噌ながら、非常に価値のあるシンポジウムにすることができたと自負しております。他方で、進行等に不手際がありました点について、心からお詫び申し上げます。

今後とも、皆様と共に再犯防止という取組を通じて、よりよき社会を実現できるよう考え、行動していきたいと思っております。

更生支援企画課長 都坂 圭吾

講演及びパネルディスカッションの概要をまとめましたのでご紹介いたします。

講演 埼玉県立精神医療センター副院長 成瀬暢也氏 「依存症に対する正しい知識と必要とされる支援」

成瀬暢也先生には、依存症治療に向き合ってきた経験に基づくお話を、丁寧に、かつ温かく語っていただきました。

○依存症の特徴

- 依存症は適切な治療・支援により回復する病気である。
- 依存症の患者に共通した特徴として、男女・年齢・使っている薬物に関係なく、「自己評価が低く自分に自信を持ってない」、「人を信じられない」、「本音を言えない」、「見捨てられる不安が強い」、「孤独で寂しい」、「自分を大切にできない」がある。これらの問題は（依存症患者に限らず）誰もが持っている。
- 依存症の患者は、対処できない困難に直面したとき、酒、薬物によって気分を変えてしのいできた。人と信頼関係を築けずに、人に癒されることなく、孤独に生きてきた。

○依存症からの回復

- 依存症からの回復には、失敗を許され、正直になれる安全な場所が必要である。
- 本音を言えるようになること、正直な気持ちを安心して話せるようになることを徹底して行うことが、回復への突破口となる。
- 依存症の回復を困難にしている最大の原因は、治療者、支援者、一般社会の**依存症患者に対する陰性感情、忌避感情、誤解と偏見に基づくバッシング**である。





パネルディスカッション

「薬物依存からの回復を考え、支えるために」

パネルディスカッションでは、依存症の当事者団体である栃木DARC の取組、日本で最も多くの女子受刑者を抱える栃木刑務所における薬物依存離脱指導の状況、栃木県の独自の取組で、薬物事犯で満期釈放となった人や保護観察が終わった人に教育プログラムなどを提供する「とちぎ薬物再犯防止サポート事業」が紹介されました。

コーディネーターの荻上チキさんが時事の報道にも触れつつ、鋭く切り込み、また、白鳥久美子さんが率直な感想やご自身が感じた思いを投げかけたことで、参加者も依存症の方の回復を支えることについて、深く考えることができました。



成瀬暢也氏

栃木DARC 栗坪千明氏

栃木県保健福祉部薬務課長

栃木刑務所教育専門官



荻上チキ氏

たんぽぽ 白鳥久美子氏

○連携

成瀬先生から、当事者団体、地方公共団体や刑務所等の連携の重要性と、地域の中で生きづらさを抱える人を支援するために連携がテーマになることをご指摘いただきました。

○刑務所の変化

刑務官が薬物依存離脱指導のグループワークに参加し、受刑者の生きづらさを理解して日常生活の指導に生かしていることや、受刑者にダルクの利用を勧めていることが紹介されました。

○依存症の方への向き合い方

成瀬先生から、自身も依存症に対する偏見があったが、回復者やその家族と会う機会が増え、依存症が回復できる病気なのだとし、認識が変わったとの経験を、白鳥さんからは、知識がなかったことを反省し、正しく理解していきたいとの意欲をお話いただきました。また、荻上さんから、ケアは特別なことではなく、ただここに居てもいいという安心感を与えることであり、仲間で居続けることがとても大事な支援だと紹介いただきました。

○地方公共団体が取り組むに当たって

まずは関係機関が顔の見える関係を作り、チームとしてそれぞれの得意分野を生かすことが重要だとの見解が示されました。

参加者のご意見（アンケート回答から抜粋）

- 講演がとてもわかりやすかった。
- 講演の時間が短く感じたので、詳しい話をもっと聞きたかった。
- 地域の連携、正しい知識の重要性を理解することができた。
- もっとたくさんの方にも聞いてもらいたい内容だった。
- コーディネーターが素晴らしかった。
- 白鳥さんが緩和剤になってよかった。
- 今後の参考にレジュメや資料が欲しかった。
- プロジェクターの文字が小さくて見えず残念だった。

ご希望に応え...

成瀬先生の資料をホームページに掲載します！

依存症や再犯防止への理解度（平均）

参加前	6.6
参加後	8.1

「理解できた」を10「理解できない」を1としてお聞きしたところ、1.5ポイント上昇しました。参加者の方と薬物依存からの回復について、理解を深めることができましたと考えています。